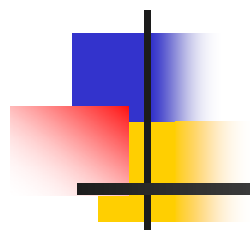




国際石油・ガス(LNG)市場の現状と展望



Session 2 IEEJ/CNPC ETRI 研究成果発表会

2017年11月8日

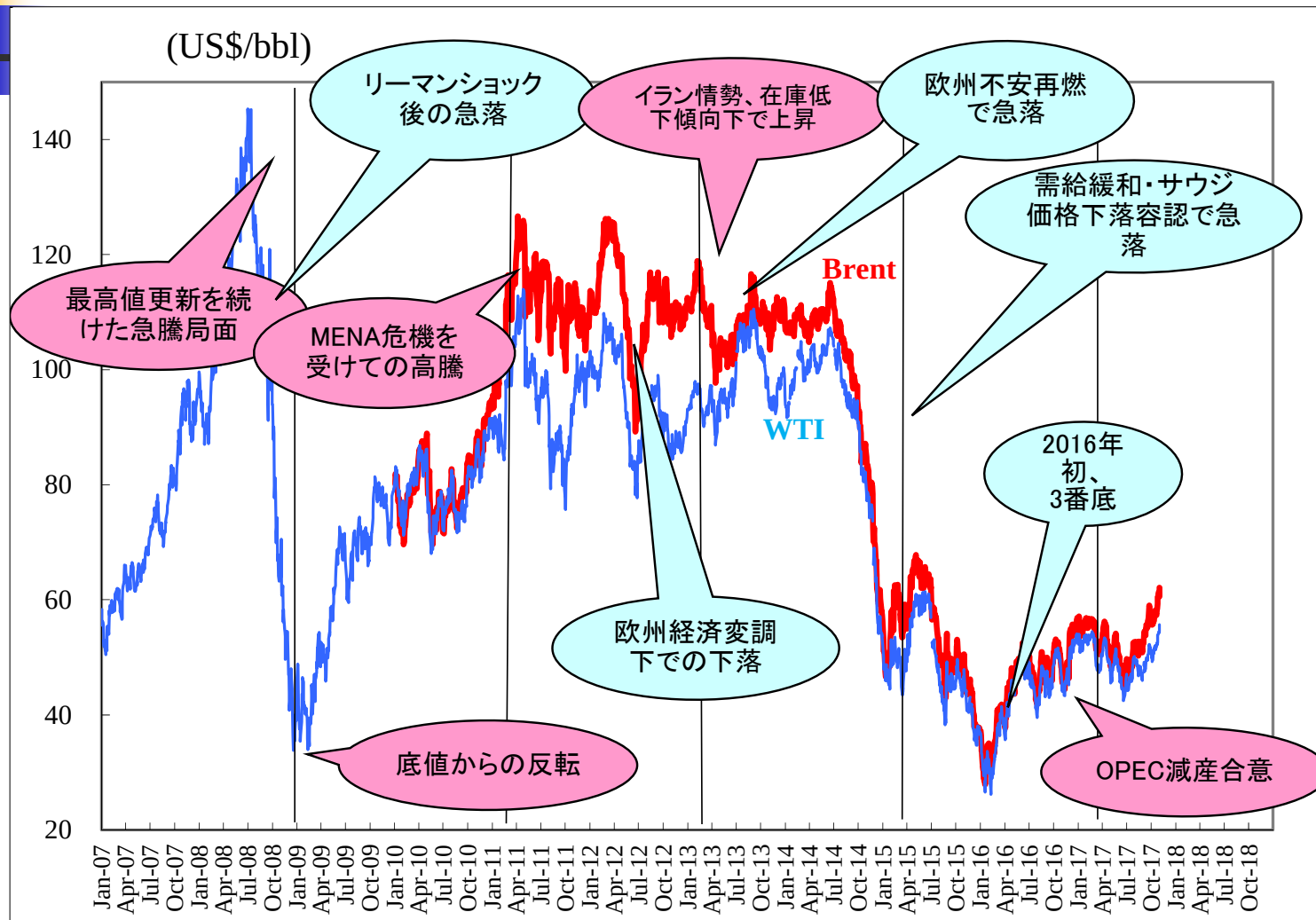
小山 堅

(一財)日本エネルギー経済研究所
常務理事・首席研究員



最近の原油価格動向

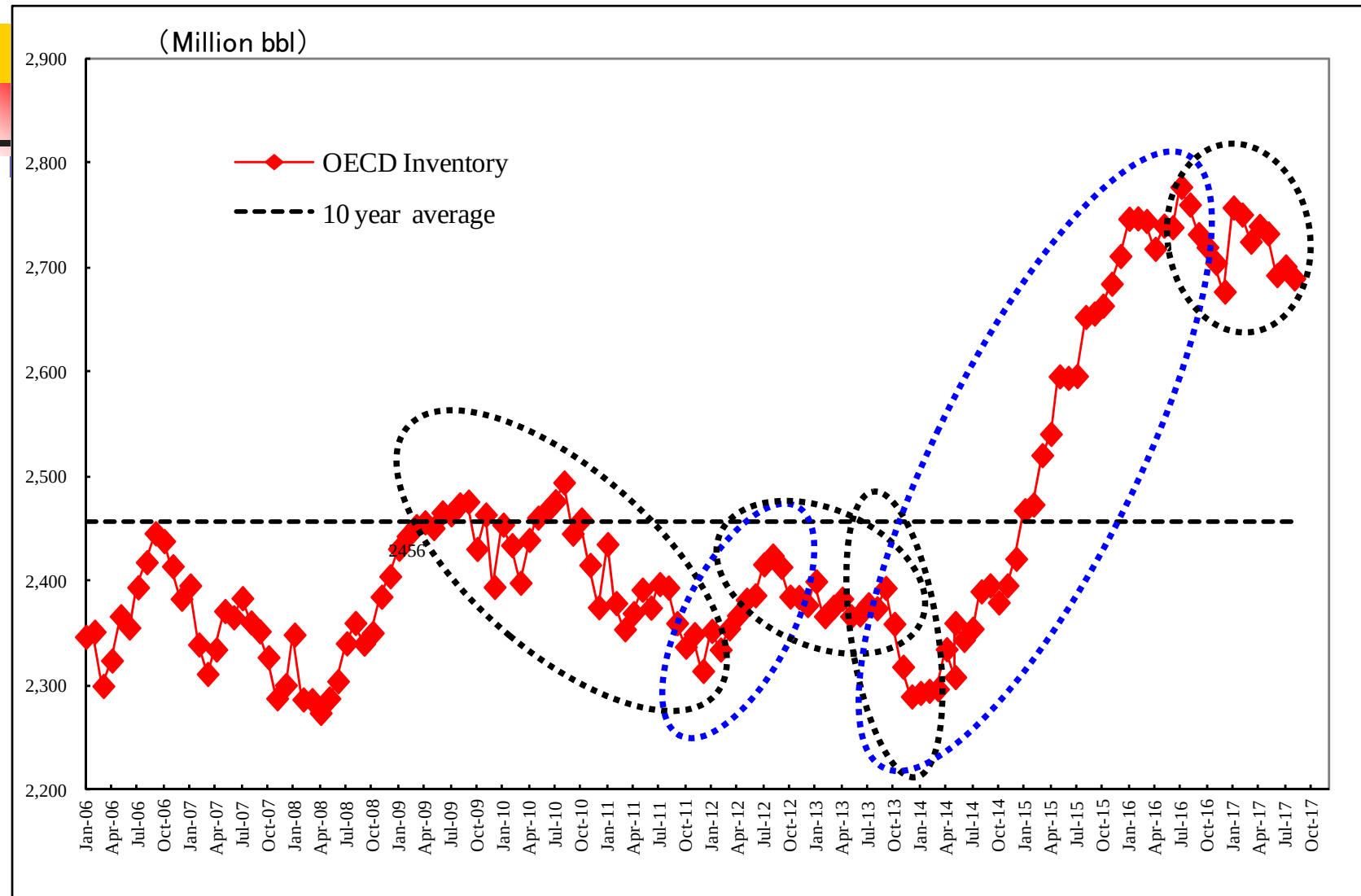
原油価格は大きく変動。引き続きvolatile



Source: NYMEX data, etc.



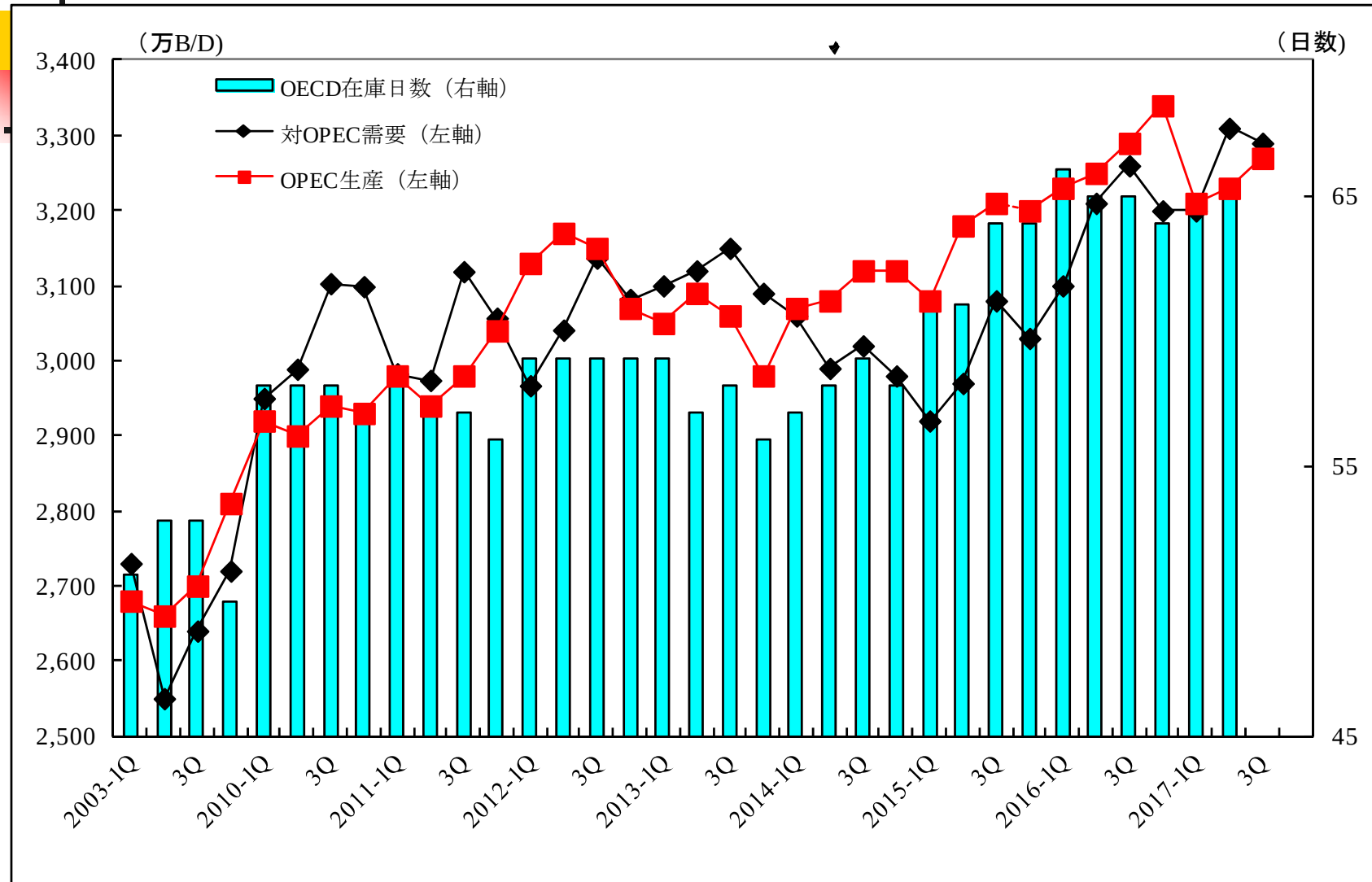
OECDの石油在庫



(出所) IEA “Oil Market Report”より作成



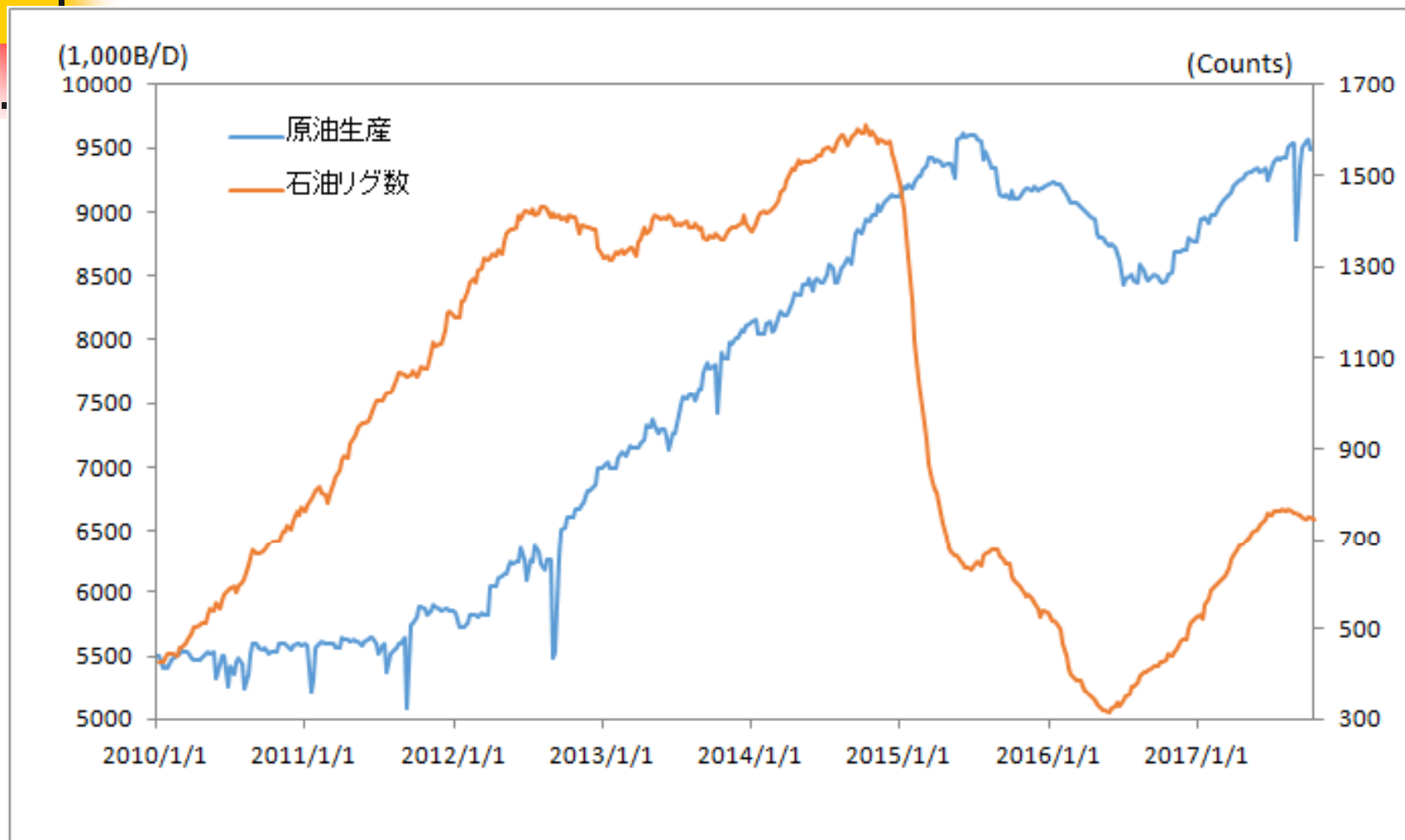
Call on OPECとOPEC生産



Source: IEA "Oil Market Report"



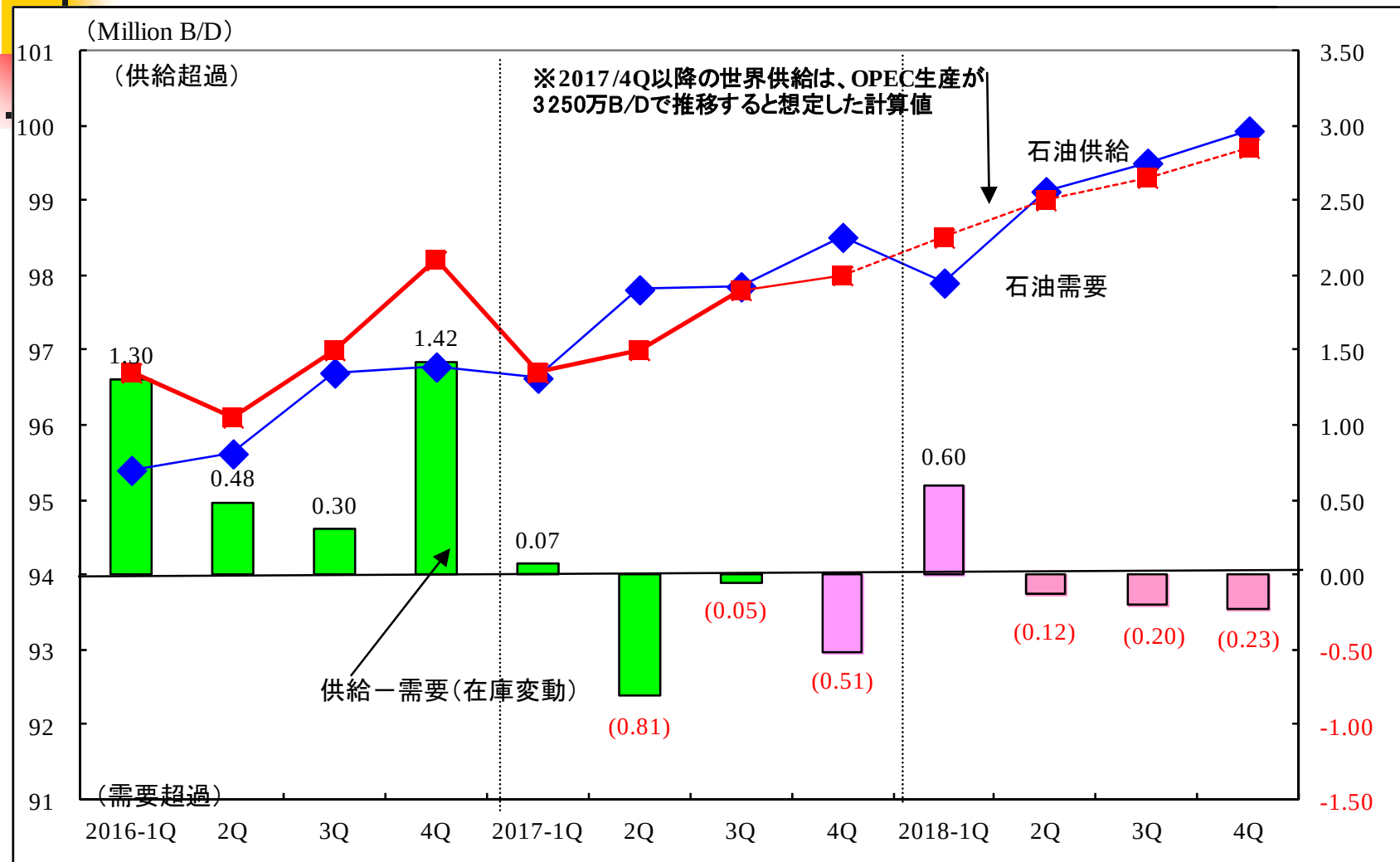
米国の石油生産とリグカウント



Source: Data from EIA and Baker Hughes



石油需給バランス見通し



Source: Outlook by the Author based on data from IEA “Oil Market Report”

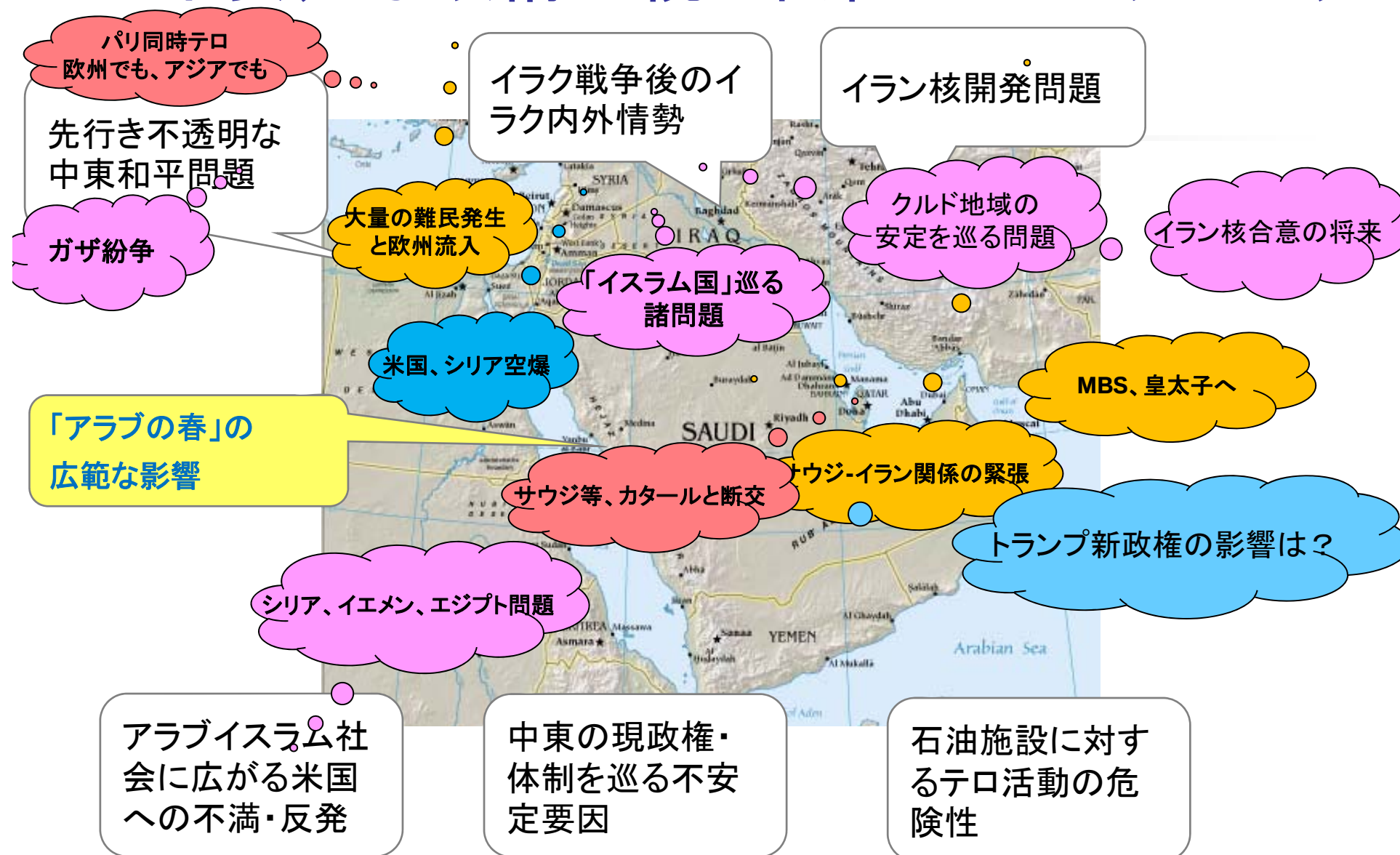


短期の国際石油市場見通し

- 当面は現状並み程度の価格水準持続か
- 市場はリバランスの方向へ。しかし...
- 米国シェールオイル生産は予想以上に底堅い。油価が一定レベル以上になれば増産へ
- 「surprise」は何か?
 - OPECの政策?
 - 産油国における供給支障?
 - 世界経済の減速リスク?
- 現状の価格水準は中期的には持続可能ではない。2020年代には市場は70ドルを目指すか
- より長期には、また別の不確実性も浮上...



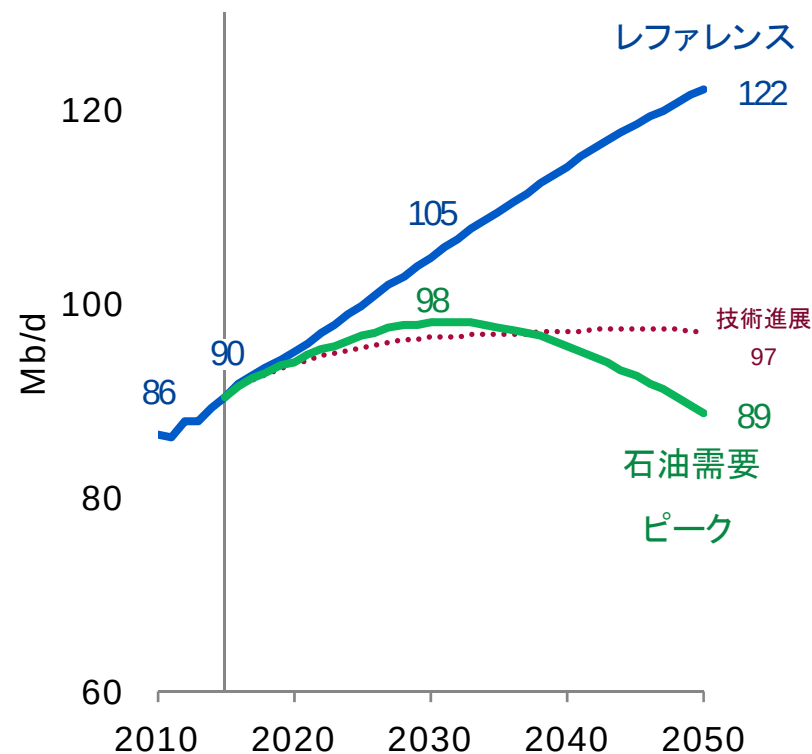
不安定な政情が続く中東・北アフリカ地域



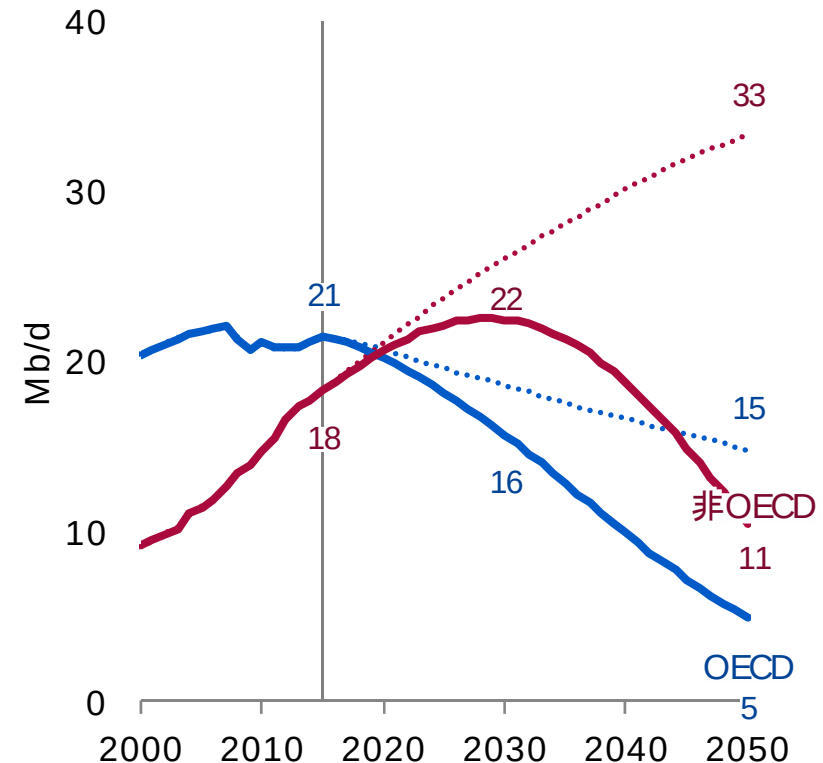


ZEVの急速普及で、石油は2030年ごろピーク

❖ 石油消費



❖ 自動車用石油消費[石油需要ピーク]



注: 点線はレファレンスシナリオ

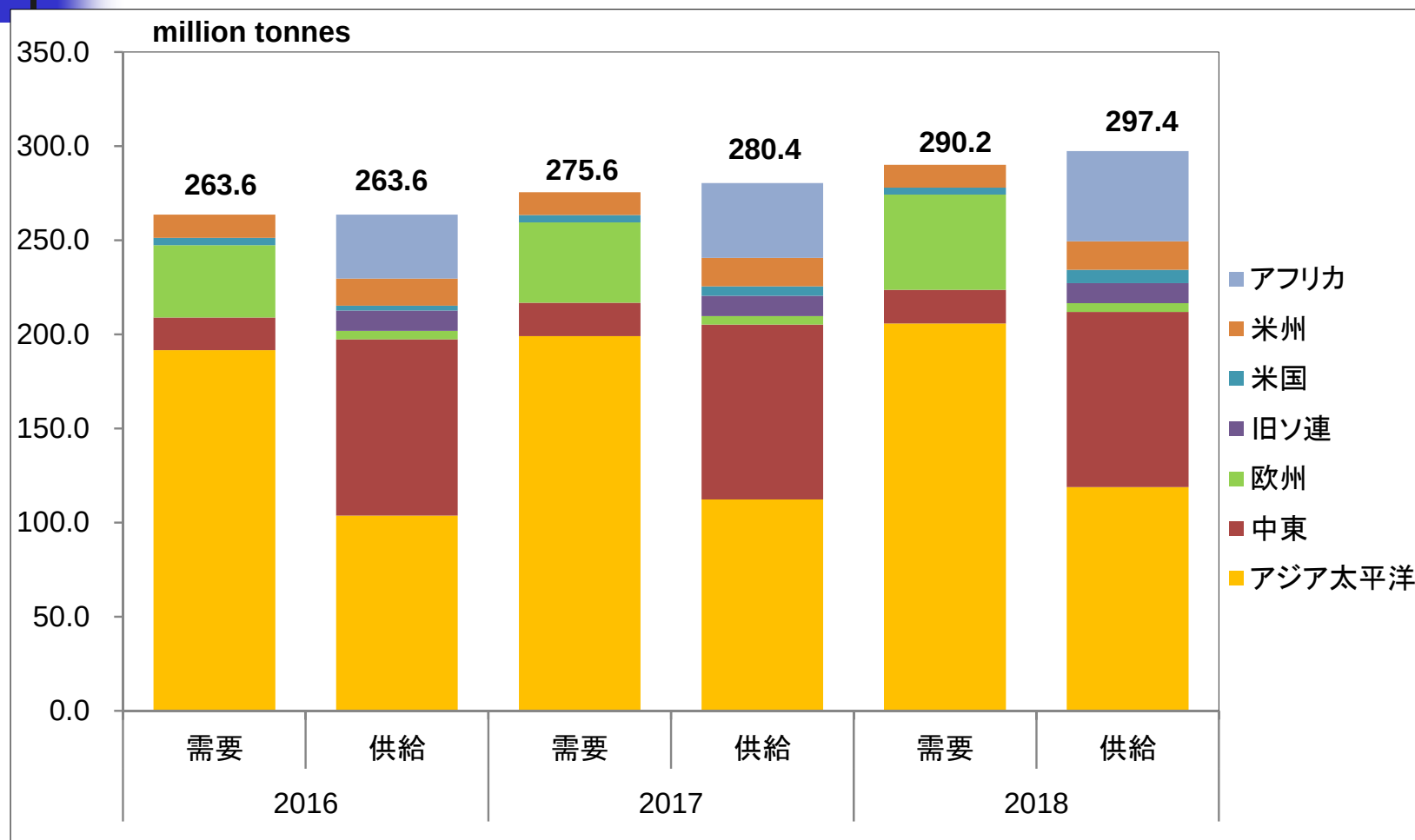
石油需要ピークケースでは、石油消費は2030年ごろの98 Mb/dを頂点に減少に転じる。レファレンスシナリオからの減少は、2030年に7 Mb/d、2050年には33 Mb/dに拡大
(出所)「IEEJ Outlook 2018」(日本エネルギー経済研究所、2017年10月)

レファレンスシナリオでは急速な増加を続ける非OECDの自動車用石油消費も2030年ごろから減少に転じる。2050年にはレファレンスシナリオ比で約3分の1にまで減少



2018年までのLNG需給バランス見通し

■ 新規供給源の相次ぐ運開で供給過剰状況は2018年以降も継続



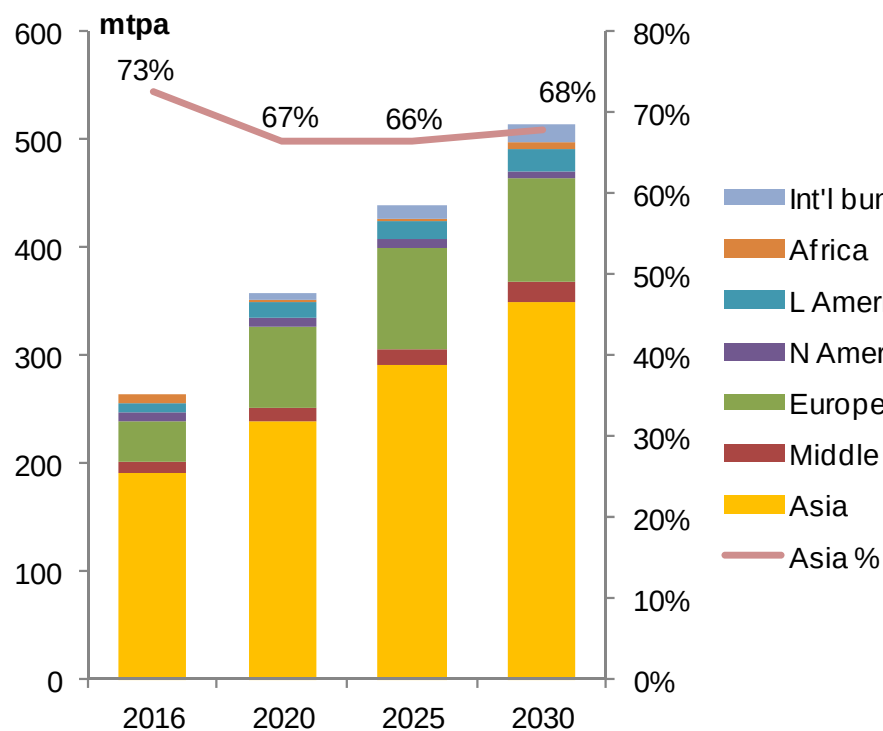
出所: 小林良和「国際天然ガス情勢の展望」(日本エネルギー経済研究所、2017年7月)



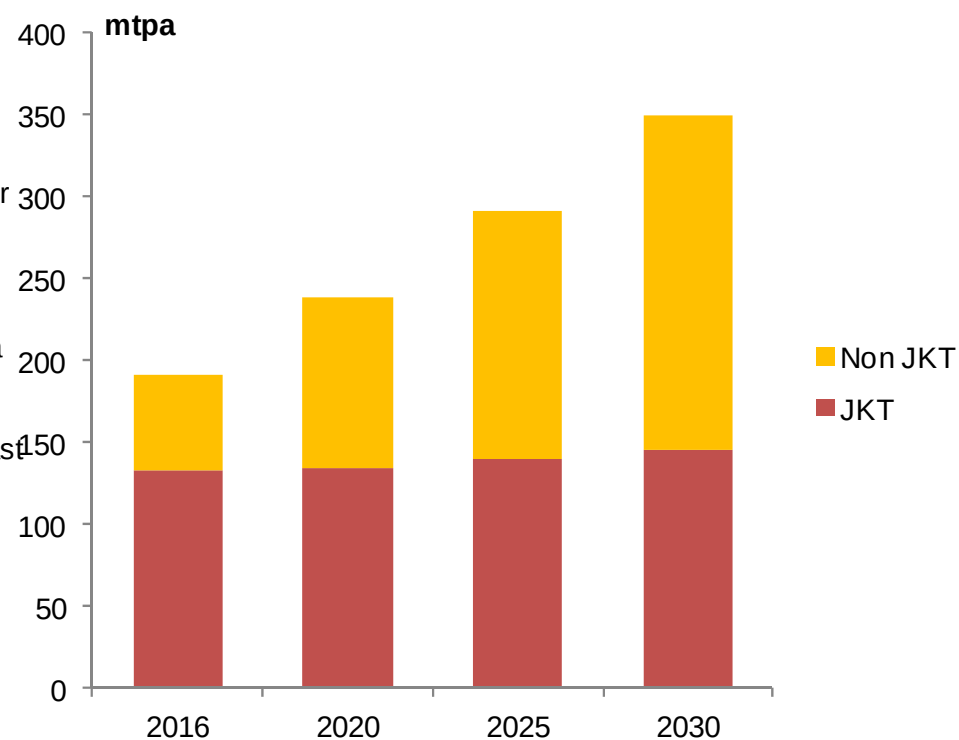
アジアのLNG需要見通し

- アジアが世界のLNG需要の中心。増加も牽引
- 中でも新興国アジアでの需要は大幅増加.
- 新興国はより柔軟な供給を选好

世界のLNG需要見通し



アジアのLNG需要見通し





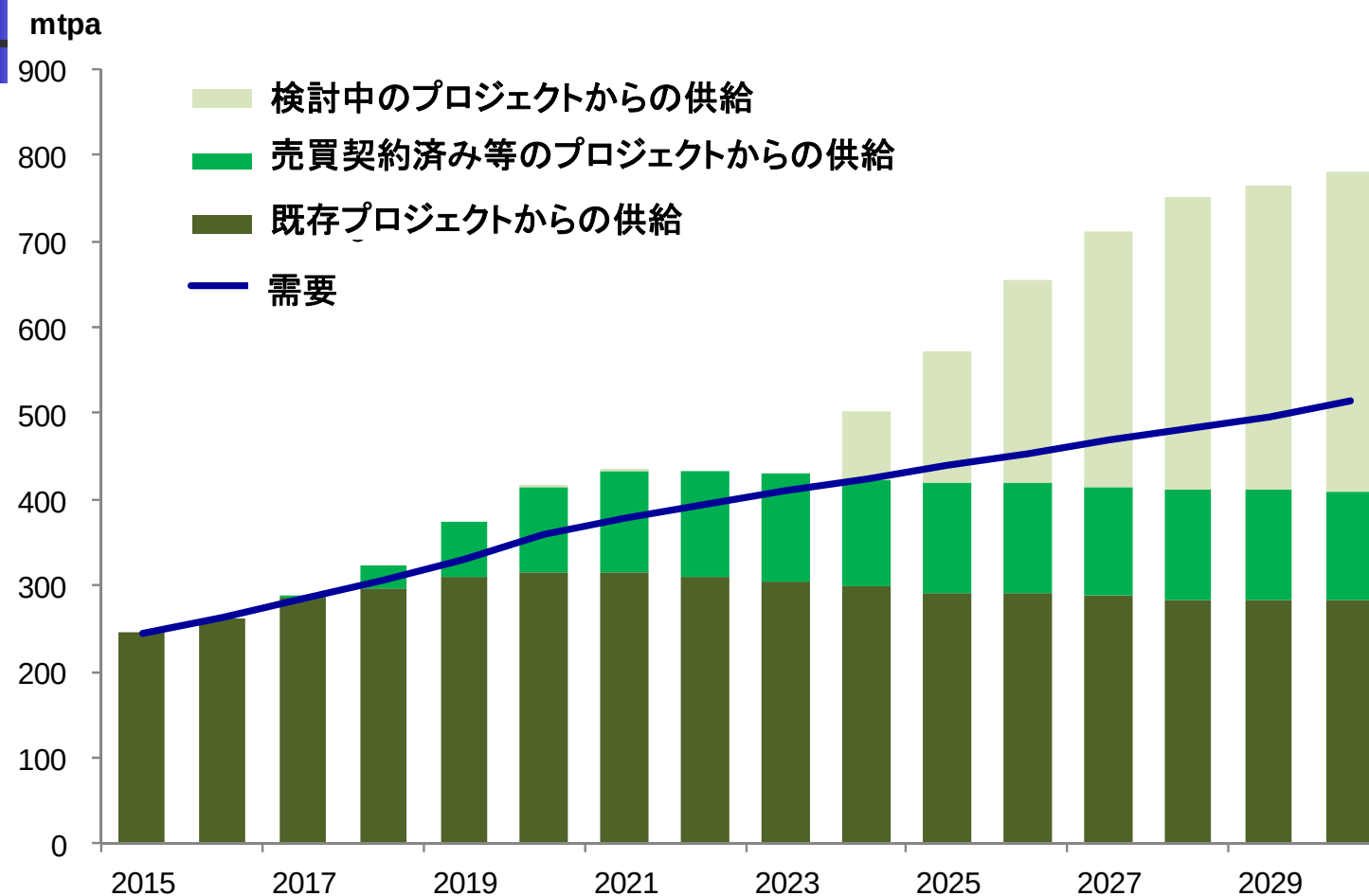
アジアのガス・LNG需要に影響する要因

- 経済成長
- 環境対策の強度
- ガス・LNG価格の低下
- 石炭との競合
- 原子力発電との競合
- 再生可能エネルギーとの競合
- LPGとの競合
- 電力・ガス市場自由化の影響
- パイプラインガスとLNGの選択



世界の長期LNG需給見通し

- 供給過剰は中期的(2023年頃)まで持続
- 計画中プロジェクトをタイムリーに立ち上げていくことが2020年代半ば以降の需給バランスにとって重要
- カタールの能力拡張は需給バランスの観点から重要

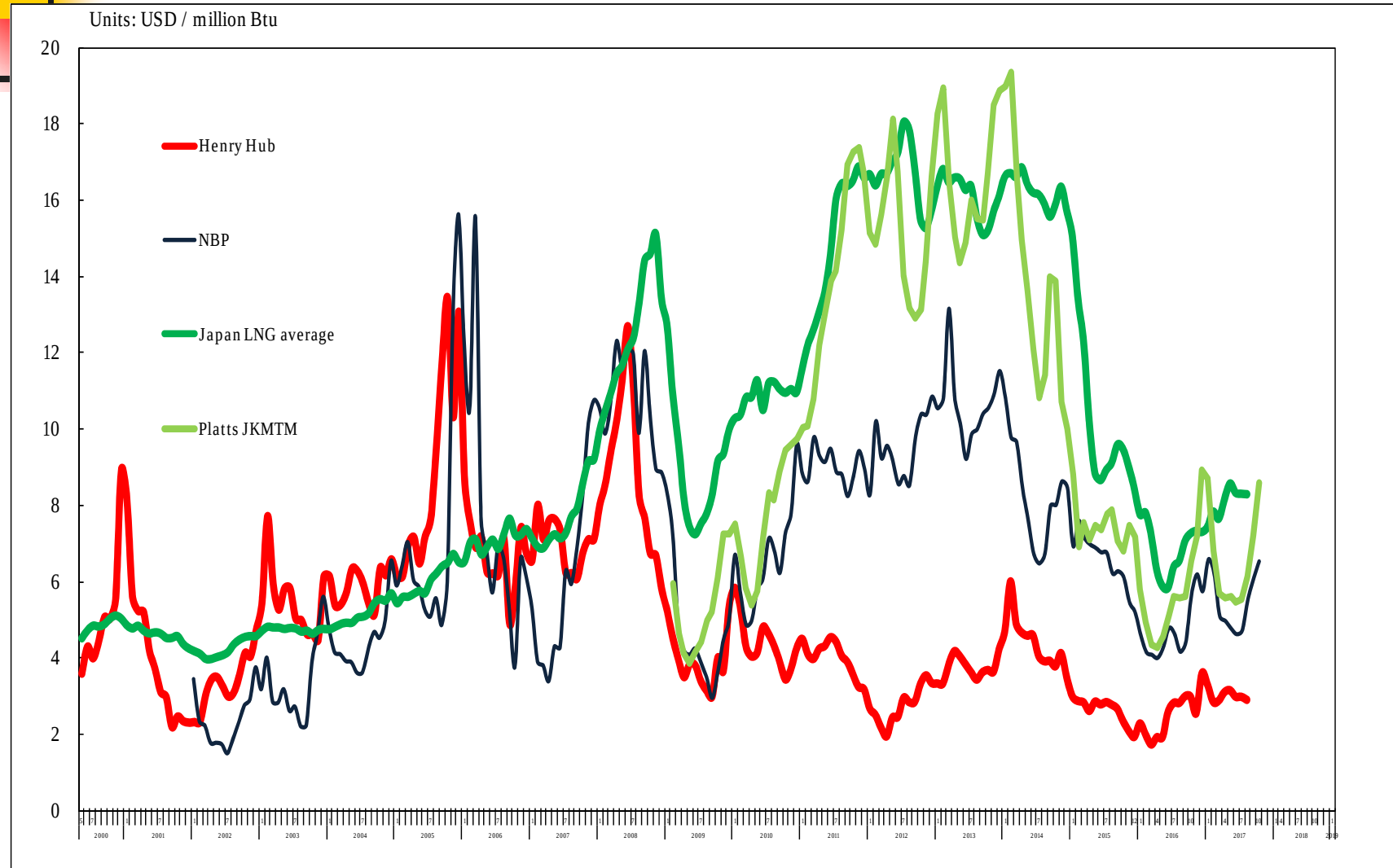


出所: Yoshikazu Kobayashi, "The Role of Natural Gas in Japan and Asia" (September 11, 2017)



世界の地域別ガス価格

アジア向け価格は大幅下落、域格差は大きく縮小



(出所) US EIA他

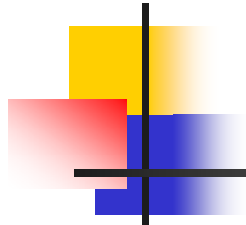


アジアでも価格形成の多様化進展へ

- 既存契約の重みから、JCCリンクが少なくとも2020年代前半までは中心的な価格形成方式であり続ける
- しかし、潮目の変化も：
 - ✓ 供給過剰状態の持続
 - ✓ HH連動の米国LNGのアジア市場への流入拡大
 - ✓ スポット/短中期契約LNGの拡大
 - ✓ アジアにおけるハブ形成を目指す試み
 - ✓ 日本・アジアにおける電力及びガス市場改革の進展
- JERA等の主要バイヤーによる価格方式多様化の模索
- バイヤーはJCCの代替を模索し続ける。その結果、JCCのシェアは低減へ
- 現時点では、「最善の代替方式」に関する答えは存在せず。
- 今後後発生しうる油価連動価格とスポット価格の乖離は何をもたらすのか。



公正取引委員会によるLNG取引に関する調査



- 日本の公正取引委員会 (JFTC)は、国際LNG取引の実態に関する調査報告書を発表
- 同報告書の重要性
 - 報告書は、既存のLNG長期契約における仕向地条項について、日本の独占禁止法に抵触する恐れあり、と明確に指摘。
 - 報告書は、日本企業に対して、新規契約及び既存契約の改定の際に、仕向地条項を認めないよう勧告。
 - 報告書は、日本企業に対して、既存契約についても仕向地制限について再交渉するよう指摘
 - 報告書は、はじめて「Take-or-pay」条項についても、場合によっては独禁法に抵触する可能性ありと指摘
- 今後の課題
 - 報告書の指摘が、外国の大企業に対してどれだけ効力を持ちうるのか
 - DES契約にどこまで当てはまるのか
- もし、他のアジア諸国のFTCが日本の報告書をフォローするようなことが起これば、同報告書はLNG長期契約に一つの標準をもたらすことにも。